

魅力だより

- ◆最上教育事務所「魅力ある学校づくり調査研究事業」通信第3号
- ◆令和2年7月16日（木）
- ◆最上教育事務所 指導課

なぜ「未然防止」が大事なのか

令和2年度「魅力ある学校づくり調査研究事業」第1回調査研究委員会（令和2年7月8日）
国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 小野 憲 総括研究官の説明から



☆児童生徒が30日以上欠席を体験すると、繰り返されたり、学校復帰が困難になったりする可能性が高いから。

→例えば、中学校1年生の不登校生徒の小学校時代の欠席状況を分析すると、半数以上は小学校時代に不登校を経験していた。

☆毎年減らしている不登校（学校・教室復帰）数を上回る、新たな不登校児童生徒が生まれることで、不登校総数が増加しているから。

→「継続数を減少させる」という発想から、全ての児童生徒を対象に「新規数を抑制する（新たな不登校を生まない）」という発想が求められている。

☆不登校数の増加により、先生方が個別対応に追われてしまい、本来の仕事（授業の準備等）に十分な時間をとれなくなってしまうから。

→先生方の本来業務である集団指導は、普遍の不登校対策である。未然防止のための集団指導をより意識していく必要がある。

☆新たな不登校を生まないことを目的とすれば、小学校も中学校も対象児童生徒の割合は、ほとんど変わらない。

→調査の結果、不登校の兆しがない児童生徒は、小学校では約91%、中学校では約92%となっている。中学校区単位で小中同一歩調となって取り組みやすい。



フレイバック

心にとどめたい言葉#1

国立教育政策研究所 小野 憲 総括研究官 令和元年5月30日

- ★ 本事業のねらいは、チーム学校（＝教員組織の同僚性）に期待した点検システムの導入により、不登校を減らすこと！
- ★ 小中連携のポイントは小中9年間を連続性でとらえること！
- ★ 小学校で培ってきた部分を中学校の1学期間に活用し、不登校の抑止につなげること！

